

御嶽山で今後予想される活動の推移と現状の観測体制

今後予想される活動の推移

- マグマ噴火またはマグマ水蒸気噴火への移行
- 静穏化

現状の観測体制

マグマ噴火またはマグマ水蒸気噴火へ移行するなど活動のより活発化が捉えられるか

マグマ貫入による地殻変動

- 2007年噴火では、現在のGNSS観測網で観測された。
- 傾斜計での検知が期待されるが、1点の観測だけではその変動源や体積変化量の推定は難しい。

マグマ貫入による火山ガス(二酸化硫黄:SO₂)放出量の増加

- 火山活動の推移を押し量るために、SO₂の放出量のモニタリングを機動観測でほぼ毎日実施。(気象庁、東大、産総研等)

マグマ貫入に伴う地震活動の活発化

- 現在の観測網でも活動活発化の把握は可能。

噴出物の分析

- 気象庁の機動観測班が、採取した降灰のデータ(拡大鏡で撮影した画像等)を現地から直接研究機関に送り、より早い分析が行える体制を組んでいる。
- 大学等研究機関では、降灰のデータを速やかに分析。

静穏化がとらえられるか

地震・微動活動の衰退

- 静穏化確認のための小さな規模の地震の把握が困難。

火山ガス(SO₂)放出量の減少

- 火山活動の推移を押し量るために、SO₂の放出量のモニタリングを機動観測でほぼ毎日実施。(気象庁、東大、産総研等)

噴煙活動や火口内の熱活動の把握

- 山麓の遠望カメラ及び熱映像カメラである程度は可能であるが、火口カメラがないため、噴煙の規模が小規模になると、状況の把握が難しい。
- 現状は、上空からの熱映像観測に限られている。